



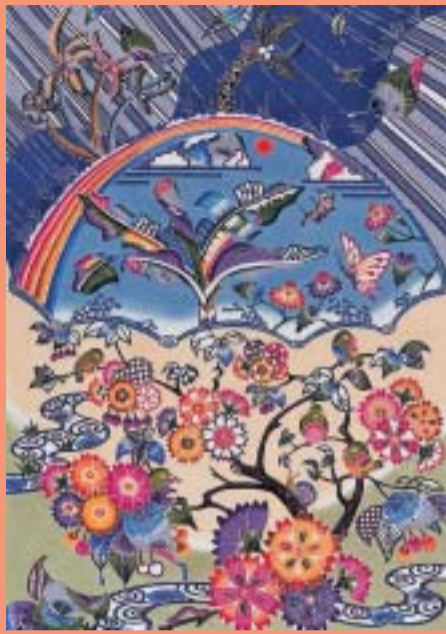
「太陽の家」委嘱状交付式

子どもを犯罪から守るために、琉球銀行の全営業店が、「太陽の家」として、警察署から指定されました。

「太陽の家」は、子どもが危険を感じた時の駆け込み場所であると同時に、警察への通報の役割を担っています。また、営業店には、「太陽の家」の看板を掲示することで、犯罪の抑止効果も狙っています。

琉球銀行の営業店は、これまで、通学路で交通安全指導などを展開してきましたが、さらに全営業店が、「太陽の家」に指定されたことで、地域の防犯強化に貢献していきます。

子どもを守れ！ りゅうぎん 全店舗を 「太陽の家」に



大賞スーマンポースー雨はずっと降っていた＝坂本 友紀

紅型公募展贈呈式

第15回りゅうぎん 紅型デザイン公募展 受賞作品決定



琉球銀行は、文化支援活動の一環として、県内の若手工芸家の育成と伝統工芸である紅型を広く紹介することを目的に、りゅうぎん紅型デザイン公募展を毎年開催しています。

十五回目となる今年は、七歳から六十五歳までの幅広い年代から、五十九点の応募がありました。その力作の中から、坂本友紀さん作「スーマンポースー雨はずっと降っていた」が大賞に選ばれ、琉球銀行の二〇〇七年カレンダーの図柄として採用されました。また、「第十五回記念特別賞」には、首里高校染色デザイン課三年生の竹中亜沙美さんが選ばれました。

受賞作品は、カレンダー以外にも、キャッシュカードや通帳、ティッシュなどの頒布品の絵柄として採用されます。

りゅうぎん紅型デザイン公募展のホームページ

<http://www.ryugin.co.jp/kouken/bingata/15/bingata15.htm>



八月に実施したリウボウホールでの受賞作品の展示会では、幅広い層に伝統工芸である紅型に関心を持ってもらうことを目的に、「紅型手作り無料体験コーナー」を設けました。

琉球銀行のホームページでは、紅型公募展の過去の受賞作品を審査員の先生の解説とともに紹介するほか、第一回から第十五回までの大賞作品をすてきな音楽とともに紹介する「ギャラリー」、受賞作品の壁紙ダウンロードコーナーを設けています。

道路ボランティア協定で、 町並みの美化に協力

琉球銀行は、各営業店において近隣の道路清掃を実施してきましたが、二〇〇六年七月、琉球銀行と道路管理者の那覇市、国、県とで、「道路ボランティア協定」を締結しました。

同協定は、銀行と市、国、県が道路の管理や美化などの維持活動に協力することで、那覇市の提唱する「協働のまちづくり」を進めることが目的です。

琉球銀行は、今回の協定締結を機会に、観光立県沖縄の



道路ボランティア協定書調印式

町並み美化に、今まで以上に
取り組んでいきます

第4回りゅうぎん子どもお金教室開催

「たのしかった！」



「経済って面白い」

琉球銀行では、毎年、夏休み期間中、県内の小学生を対象に「お金の大切さ」や「社会でのお金の流れ」などを学ぶ金銭教育の一つとして、「りゅうぎん子どもお金教室」を開催しています。

四回目となった今年は、ゲーム形式で学習するプログラムを導入しました。子どもたちが五名ずつ九つの国に分かれ、時間内にとどの国が一番お金を持つことができるかを競います。条件や設定の違う国同士で

琉球銀行では、毎年、夏の貿易などを通して経済の仕組みやお金の流れ、銀行の役割を楽しく学習してもらいました。合計九十名の小学六年生が参加し、「すごく楽しかった」「新しい発見があった」「将来に役立つ」「違う国と協力することがわかった」「友達、兄弟にすすめたい」といった感想が寄せられました。

なお、お金教室の様子は沖縄タイムスの日曜版「ワラビー」でも特集されました。



CS向上についてプレゼンをする学生インターンシップ

養護学校生徒や大学生のインターンシップを受け入れ

琉球銀行では、毎年、各機関からの研修生や大学生を中心とする学生のインターンシップ（就業体験学習）を受け入れています。

今年も沖縄県警察本部から三名の研修生、那覇養護学校から二名、大学生のインターンシップ二十七名を受け入れました。

県警察本部の研修生については本部業務を中心に約二週間、那覇養護学校の生徒には約一週間の研修を実施しました。

大学生のインターンシップでは、講義や営業店での実習を通して、銀行業務を体験してもらいました。最終日には、これまで学んだ銀行の窓口対応の成果を競う「窓口対応ロールプレイング大会」を開催し、二週間の実習の成果を披露しました。

最優秀賞の城間麻美さん（沖縄国際大学）は、「商品の説明は難しかったけど、笑顔が心がけた。評価が高くてうれし」と感想を語りました。